

Maintenance News

ドイツ車のメンテナンスには欠かせないテスターの最新事情 メンテナンスに“革新”をもたらす 故障診断ツールの実力を検証！

ドイツ車のメンテナンスに欠かせないのが故障診断機。クルマの電子制御が進むにつれて診断機も進化しており、高年式ドイツ車においてはコンピュータ診断機無しではメンテナンスできないほど重要度が増している。ここで紹介するのは「革新」の機能を備えた最新の故障診断機。その実力を検証していきたいと思う。



AUTEL MaxiSys オーテル マキシシス

汎用の故障診断機に新たな風を吹き込んだ次世代のタブレット型

自動車用のテスターを開発しているオーテルの最新機種がマキシシス。従来品よりも診断精度、対応車種、使い勝手などが大幅に向上している。診断機の四隅に取り付けられた強化ラバープロテクターによって、うっかり本体を落下させてしまってもディスプレイや内部に影響を与えないタフな作りになっている。次世代の故障診断機とも言えるワイヤレスのタブレット型である。

MaxiSys のココが革新的！

- 起動時間が圧倒的に速い
- タッチパネル方式
- ワイヤレスで故障診断ができる
- スピーディで正確な診断
- インターネットやメールができる
- 輸入車・国産車 45 メーカーに対応
- 古めのドイツ車にも対応



タブレットやスマートフォンのようにタッチパネルで操作できる。日本語に対応しているので操作はとても簡単だ。

古めのドイツ車はメーカーや車種によってピン数が異なるが、これに対応したアダプターを用意。高年式モデルだけではなく、90年代のドイツ車にも対応している。



ク

ルマの電子制御化は、効率性、快適性、安全性などを飛躍的に高め、これに伴いメンテナンスの環境も大きく変わってきている。電気の抵抗などを地道に点検する昔ながらの整備から、目視では確認できないセンサーや電子ユニットの状態を素早く点検できるコンピュータ診断機を使ったメンテナンスが主流になっているのだ。

こうした診断機やテスターと呼

ばれるものには、自動車メーカーが作った専用部品と多くのメーカーに対応した汎用品がある。専用部品はメルセデスではDAS、BMWではDIP Sと呼ばれる、ディーラーだけでなく街の修理工場でも使われている。ただ専用テスターは高価であり専門工場では揃えていることが多いが、高価ゆえに診断機を持たない工場もある。

一方、汎用の診断機はメーカー専

用品に比べてチェックできる部分你若干限られるものの、基本的な診断は問題なくできる。複数のメーカーを一つのテスターで対応できるのがメリットで、価格も安い。

今回紹介するオーテルのマキシシスは汎用テスターの部類に入りますが、最新機種ということもあり「革新」とも言える性能を多数備えている。その特長をいくつか紹介していこう。まず、起動時間が圧倒

的に速く、スイッチを入れれば数秒で起動。見た目はタブレットのようであり、タッチパネル式となっている。OSにはスマートフォンでお馴染みのアンドロイドを搭載しているから、WiFiでインターネットやメールをすることも可能。ワイヤレスなので、クルマの近くで作業する必要はなく、クルマは工場、診断機は事務所に置いたままでも故障診断ができるのだ。診断の精度も高く、

スピーディにクルマの状態を把握できるのである。対応車種も輸入車、国産車含めて45メーカーと幅広く、もちろんすべてのドイツ車に対応。また、車両側に接続するアダプターを変えれば90年代モデルの故障診断も可能だ。

このように「革新」の性能を誇るオーテルマキシシス。次頁では実際に使ってその性能を検証してみたい。

メルセデス・ベンツ SL クラス (R230) をサンプルに故障診断!



1 通信用のデバイスを車両側に接続。本体はワイヤレスなので、一定の範囲内であればクルマから離れていても操作できる。



2 45 メーカー分の診断プログラムがすでにインストールされている。まずはメルセデスを選択。



3 車種の一覧が表示されるので、SL クラスを選択。タッチパネルの感度は抜群にいい。



4 年式やハンドル位置などを選択していく。画面の表示に従って選ぶだけなのでとても簡単だ。



5 車両情報をすべて入力したら、オートスキャンを選ぶ。あとは結果を待つだけ。



6 診断中のディスプレイには電子ユニットの状態などが表示される。診断速度は想像以上に早い。

すべての操作はタブレット感覚！ 素人でも診断できるほどの手軽さ

これまでの汎用ツールとは違うのは利便性と診断性能の高さ

次世代故障診断ツール MaxiSys を使ってみた!

「革新」とも言える性能を持つ AUTEL MaxiSys。その実力を知るために正規販売店である G-STYLE にて診断速度から使い勝手などを実際に使って検証してみることにした。

マ キシシスの実力を検証するために、実際に故障診断を試みることにした。まずはサンプルカーに通信用のデバイスを接続するのだが、ワイヤレスなので本体は事務所などに置いたまま。場所を選ばず診断できるのは非常にラクだ。その後、メーカー、車種、年式などを選び、最後に「オートスキャン」を選択すると車両側との通信が開始され、各部の状態がディスプレイに表示される。この診断を元にさらに細かく点検できるのだ。

ここまでの作業で難しいことは何一つなく、表示された画面を追って選択していくだけ。タッチパネルの感度も良く操作性は抜群だ。タブレットを操作しているような感覚なので、素人でも簡単に診断できてしまうほど。また、日本語表記なので選択に迷うことなくスムーズに診断できたことも特筆すべきポイントだろう。

さらにエラーコードやオイルの交換時期などを知らせるメンテナンスメッセージなどもリセットでき、基本的な部分では問題なく診断できる。高年式モデルでは部品を交換した後コーディングが必要になる場合があるが、これにも対応しているから自動車メーカーのコンピュータ診断機並みの性能を持っていると言える。トラブルの原因を特定していく過程においても、インターネットで部品などを調べることができるし、診断結果をユーザーにメールで送るといったことも簡単にできる。

例えばトラブル箇所を写真や動画で撮影して、そのデータをユーザーにメールで送ったり、自社のフェイスブックなどにアップするといったことも MaxiSys 一台でこなせるのだ。これはユーザーにとって嬉しいだけでなく、作業の効率化を図れるので工場側のメリットも大きい。

MaxiSys には 45 メーカー分の診断プログラムが追加料金無しでインストールされており、アップデートもスマートフォンアプリのような感覚。必要なアップデートをタッチパネルで選択するだけだ。「すべてのアップデート」を選択すれば自動的に一括更新もできる。アップデートの費用は 1 年間は無料で、その後更新する際には 6 万円(税別)が必要になるが、更新せずに使うことも可能とのことだ。

ユーザー向けというよりはプロ向けの診断機ではあるが、この MaxiSys を触ってみるとメンテナンスの環境が大きく変わってきたことを実感させられる。クルマの進化とともに、それにマッチした診断機を持つことも修理工場にとっては必要な投資になってくるのだろう。



WiFi 経由でインターネットができる。またカメラが内蔵されているので、作業中の写真などを撮影して、そのまま自社のフェイスブックなどにアップできる。デジカメで写真を撮って、それをパソコンに取り込んでからアップするという従来のやり方と比べると、非常に簡単であり、作業の効率化も図れる。

AUTEL MaxiSys オーテル マキシシス



簡単操作を実現し、現代にマッチした性能を持つオーテル マキシシス。輸入車に強い診断機であり、国産車を含めて 45 メーカーに対応している。

- CPU : Cortex-A9 クアッドコアプロセッサ
- OS : Android 4.0 Ice Cream Sandwich
- SSD : 32GB
- スクリーン : 9.7 インチ [1024x768] LED マルチタッチスクリーン
- デュアルバンド : Bluetooth 2.4 GHz/Wi-Fi 5.0 GHz
- ポート : USB ポート / LAN ポート / HDMI ポート / VGA ポート
- バッテリー : 11000mah 3.7V リチウムポリマー電池 AC/DC 最大 8 時間駆動
- ボディ : エルゴノミックデザインタフボディ 強化ラバープロテクター
- カメラ : 5 メガピクセル オートフォーカス フラッシュ内蔵
- 重量 : 1.42kg
- サイズ : 300mm × 220mm × 50mm

価格 : 30 万円 (税別)
問い合わせ : G-STYLE ☎ 04-7187-4405